



スポーツを さまざまな視点から分析

誰もが、生涯にわたり スポーツを楽しむために

私が専門とする体育学はさまざまな分野の複合領域で、医学、物理学、哲学、心理学、社会学など、いろいろな側面からアプローチできる学問です。若い頃は生理学やバイオメカニクスなどについても研究していましたが、現在はスポーツ社会学に近い内容について研究しています。

スポーツをする人の中には、強化を目指す人、レクリエーションとして楽しむ人、体力向上を目指す人などさまざまな目的を持った人がいます。しかし、昨今の報道でも目にするように、体罰やハラスメントによりスポーツが嫌いになったり、続けられなくなったりする人がいるのも事実です。そのような人をなくすためにはどんな環境を整えればよいのか。全国から事例などを取り寄せ分析することで、その背景にある問題を探り、生涯にわたって多くの人々がスポーツを楽しめるようにしたいと考えています。

変化が激しい社会の中で 新しいスポーツの取り組みを考える

今、スポーツと産業をどう結びつけるかが話



題になっています。最近ではプロスポーツのみならずアマチュアスポーツの世界でも、スポンサーをつけたり、クラウドファンディングを活用するなどさまざまな支援の形が存在します。企業側からすれば、応援したい気持ちに加え会社や商品の知名度向上にもつながりますし、選手側からすれば、多くの人々に応援されてうれしいですし、活動の資金等の援助があれば、より良いスポーツ環境の整備にも繋がります。

両者にとってメリットのあるこの関係性を、地方や、もっと小さい単位の団体にもうまく適用できないかと考えています。将来的には、支援してほしい団体と支援したい企業や団体、個人とのマッチングに対し、アドバイスができるような研究結果をまとめられるといいと思っています。

文学部 社会文化学科
教授

ちば ともゆき
千葉 智行

専門は体育学(バレーボール)。岩手県バレーボール協会委員のほか、過去には日本バレーボール協会役員や、バレーボールワールドカップの役員も務めた経験を持つ。日本協会が主催する各種大会の決勝審判を務めることができるA級審判員を経て、現在はJVA名誉審判員として後進の指導にあたる。

Episode

自分に合ったスポーツ習慣を

新型コロナウイルスの流行や働き方改革などの影響で、自分の時間が確保しやすくなった昨今。新しい生活様式のもと、時間をどのように過ごすのが一人ひとりに関わっています。その選択肢として挙げられるのがスポーツ。健

康のために、また歳をとってからも自分のことは自分でできるように運動習慣を身につけておきたいものです。いろいろな運動やスポーツに挑戦してみて、自分に合ったもの、続けていけそうなものを探ってみてほしいですね。

